

新婚・婚前のカップルへのリプロダクティブ・ヘルス教育と 家族計画教育の評価

岩木 宏子¹⁾・吉谷須磨子²⁾・大塚さく子²⁾・酒井 孝子³⁾

要 旨 教会に通う新婚・婚約中の男女とその友人達86名に対し、生命誕生についてのビデオ鑑賞、その後、性、いのち、家族計画について意見を發表しあってもらい、次にピリングス排卵法についてのビデオ鑑賞、計画的妊娠についての講義をした後、計画的妊娠やパートナーシップについて自由記載のアンケートに回答し、教育内容と回答結果について定性的・定量的分析を実施した。言語的相互作用カテゴリー分析により「愛情」「感動」「同調」を決定し、「愛情」「感動」が、計画出産というパートナーの「同調」という関連を作りだせたかを検討した。その結果、愛情について多く記載した人は、感動についても有意に多く記載していた。感情と同調との相関は、大項目では、有意な相関は認められなかったが、中項目では、「守る」と「考えを合わせる」、「大切」と「調子を合わせる」で有意な関連がみられた。また、「同調」では、「考えを合わせる」81.4%「調子を合わせる」94.2%の2項目の記載が高く、「自律できる」は8.1%と低かったことから計画的妊娠には、夫婦間で協調して実行することの大切さ、愛と責任を持って夫婦間で意見を一致させることの大切さを示していた。

長崎大医療技短大紀 14(1): 83-87, 2001

Key Words : 家族計画, 教育評価, リプロダクティブヘルス・ライツ, ピリングス排卵法, 言語的相互作用カテゴリー分析

はじめに

現在、性行動、結婚、出産の状況は大きく変化しており、それに対応した適切な家族計画・性行動・夫婦愛についての教育が、母性看護学の母子保健の思想であるリプロダクティブヘルス・ライツを促進する上で求められている。

未婚女性の性交渉率が50%を上回り、しかも、16-19歳の年齢層が他の年齢層に比べ著しく増加しており、避妊に対する正しい知識の普及が必要である。一方、既婚夫婦の避妊実施率は70-80%であるが、「排卵日を推定し、安全日には何も使用しない」という方法が避妊実施者の70-80%を占めている¹⁾。それに関連して既婚女性の4人に1人は人工妊娠中絶を体験している。若い夫婦は、避妊に失敗し妊娠したら出産する予定のことが多いが、10代と40代の女性は人工妊娠中絶をするケースが多い。これは、人工妊娠中絶に対する意識調査では85%が「中絶をみとめる、あるいは、条件付きで認める」と回答しており、日本では避妊に失敗したときは人工妊娠中絶をすればよいと考える傾向があることと関連している。このような背景によって、日本では避妊と計画出産に関する知識の普及と正しい態度の育成が十分に進んでいない状況にある。一方、アメリカ合衆国では、1950年代の後半から避妊法の開発が盛んになった。この研究開発の背景に

は、計画出産に対する社会的要望と、世界の人口爆発の回避という目的があった。人工妊娠中絶に対して厳しいキリスト教社会では、しっかりした避妊による家族計画・計画出産の重要性が指摘されている。アメリカ社会全体に対する浸透度には問題があるが、リプロダクティブヘルス・ライツに関する思想普及とそれに対する現実的で多様な取組みがなされている。

健康的で健全な避妊・計画出産の実施・普及は「避妊法の知識」だけでは達成できない。夫婦間あるいは、パートナー間の十分な相互理解、愛情、コミュニケーション、強調、同調が必要であり、母性としての女性が十分に自らの健康に責任をもつと同時に、男性も母性に対する十分な知識と協調的態度を獲得する必要がある。リプロダクティブヘルス・ライツに基づく避妊・計画出産教育は、その点までも含めて理解されてこそ、有効性をもつ。

本研究を実施したキリスト教教会では、教会に通う夫婦とその家族の地域の希望者を集め、家族愛等について平成8年以降、55回のセッションを開いてきた。我々は、56回目のセッションにあたり、婚前・新婚のカップルに生命誕生と母性に関するビデオを見せるとともに、計画出産・避妊法の指導を実施した。受講後に自由回答式のアンケートを実施し、「避妊法を学んだことにより母子保健に対する関心が高まったか(課題1)」「避妊法の活

1) 長崎大学医療技術短期大学部専攻科

2) 山形大学医学部看護学科

3) 長崎純心短期大学

用の意欲・計画出産の意識が高まったか（課題2）」の2点をアンケート記載から読み取り、母子保健分野でリプロダクティブヘルス・ライツの思想が実現しているかどうかを評価した。

対象と方法

対象者は、教会に通う人とその友人で指導を受けたという希望した86名の新婚・婚約中の男女である。講習会は、対象者に人間の尊厳と性の尊さを学習してもらい、計画的妊娠・出産についての知識と意識を高める指導を地域母子保健向上の一環として実施した。実施手順は以下の通りである。

1) 生命誕生のVTRの鑑賞

生命の芽生えとしての受精から細胞が分裂して人間の組織や器官が形成され新生児として成長する過程と成長過程で母の声に反応したり、母の気持ちに反応したりする映像をみせた。これによって生命と生命誕生、母性とのつながりについての感動を与えることを意図した。

2) 意見・感想の発表・交換

次に性、いのち、家族計画について参加者が意見・感想を発表するセッションを実施した。

3) 排卵メカニズムと避妊法の具体的指導

最後に、「ピリングスの排卵法」を使い性周期、排卵、ホルモンの分泌、妊娠可能な時期と避妊の方法をビデオ・図・模型を使いながら示し、避妊法の実例を指導・説明した。

4) アンケートへの意見・感想の記載

講習会で得た知識、意見、感想を参加者に構成法で記述してもらった。質問項目は「女性の体をどう思いますか」「自然の恵である生命誕生の仕組みをどう思いますか」「ピリングス排卵法をあなたの方の家族計画（出産計画）に取り入れたいと思いますか。それは、なぜですか」であり、さらに「その他、あなたが感じていること、希望などがありましたらお書きください。」と自由記入欄を設けた。

分析は以下の方法で実施した。

1) 講義指導時間と内容についての評価

八木・吉崎（1990）の①教材内容についての知識、②教授方法についての知識、③対象者についての知識の3分類に従い、指導者が「母子保健に対する関心を高める」「避妊法活用の意欲・計画出産の意識を高める」という2つの課題についてどのように、どの程度の時間を使ったかを分析した。分析は指導時間120分の指導過程の回想記録に基づきおこなった。

2) アンケートの質的分析

86名に構成法で記述してもらった結果をBalesの言語的相互作用の分析としてのカテゴリ・システムに添って、大項目、中項目、小項目を抽出した。

3) アンケートの量的分析

大項目、中項目についてそれぞれ86人中何名が言及したかについて出現率を算出した。その後、出現率の関連を調べた。また、各大項目のうちで各人がいくつの中項目について言及したかを0から3に数量化し、大項目間での順位相関を検討した。

結 果

1) 講義内容と講義時間配分

全体で120分の講義時間の中で、課題1である「母子保健・リプロダクティブヘルス・ライツへの関心」に2/3、80分を使用し、課題2の「避妊法の活用への意欲が高まり、計画出産の意識の出現」に40分を使用していた（表1）。

課題1の「母子保健への関心」については、対象者を理解するために27分、「教材内容」に25分、教授方法に15分、その他に13分をあてていた。まず、紹介、講演会の趣旨等を説明し、指導者と講習参加者の関係の成立にかなりの時間をかけ、その後、内容についてのVTR、写真を使う時間に25分（31.3%）、その解説等に15分をあてていた。

課題2の「避妊法の活用の意欲／計画出産の意識」は、「母子保健への関心」に続いて実施されたために、対象者との関係確立にあてる時間は10分のみとなり、教材内容に18分、教授方法に12分をあてていた。課題2の「避妊法の活用の意欲が高まり、計画出産の意識の出現」では、40%の時間を図・絵・模型などを使用した教育にあてていた。

全体では教材内容に1/3強、対象者に1/3弱、教授方法に1/4弱をあてていた。指導者は講義中に、生命誕生に関する感動、パートナーに対するいたわりについて言及していた。

表1. 指導者が指導対象者について行った内容の割合（指導時間120分の割合）

課 題	対象者	教材内容	教授方法	その他	合 計
「母子保健への関心」	27	25	15	13	80分
「計画出産の意識」	10	18	12	0	40分
合 計	37	43	27	13	120分

2) 受講後のアンケートの分析

2-1) 内容の質的分析

86名に構成法で記述してもらった結果をBalesの言語的相互作用の分析としてのカテゴリ・システムに添って検討することにより、各段階による特徴的な記述で

ある「生命の誕生に対する感動についての表現（以下、「感動」と称す）」「パートナーの体をいたわる愛情についての表現（以下、「愛情」と称す）」「家族計画に関する同調についての表現（以下、同調と称す）」の3カテゴリーを抽出した。

「感動」は「感じる」「心を動かす」「理解する」の3つの中項目から構成され、「感じる」の下に神秘、不思議、感心の3小項目、「心を動かす」の下に感謝、デリケート、大切の3小項目、「理解する」の下に、サポート、構造、機能の3小項目を設けた。

「愛情」は「慈しむ」「大切」「守る」の3つの中項目から構成され「慈しむ」の下に、自然の営み、尊敬、驚き、「大切」の下に、奇跡、感謝、誕生の責任、「守る」の下に、生命の尊さ、誕生のしくみ、計画的出産の合計9つの小項目を設けた。「同調」では、「避妊法の活用 of 意欲が高まり」、「計画出産の意識が表現しているか」、「ピリングスの排卵法の活用意識を表現しているか」などに焦点をあて、「考えを合わせる」「調子を合わせる」「自律できる」の3つの中項目と、その下に、努力、責任、夫婦愛、計画的避妊、性周期健康、自然に、解らない、ピリングス法不信の9つの小項目を設けた。

2-2) 記載内容の量的分析

大項目の記載状況では、「感動」については全員が何らかの記述をし、「愛情」については94.2%の人が記載し、「同調」については98.8%の人が記載していた。各中項目の「記述あり」の割合（出現率）は表2に示した通り、「感動」では、「感じる」46.5%、「心を動かす」81.4%、「理解する」64.0%の出現率であった。「愛情」では、「慈しむ」59.3%、「大切」67.4%「守る」53.5%であった。

「同調」では、「考えを合わせる」81.4%、「調子を合わせる」94.2%の2項目が高く、「自律できる」は8.1%と低かった。多くの参加者が、生命の大切さ、デリケートさ、夫婦間で協調して実行することの大切さ、愛と責任をもって夫婦間で意見を一致させることの大切さについて言及していた。

表2. 母子保健に対する関心度の要素及び特徴的記述例と記述有の割合

要素化	中 要 素	小 要 素	記述有の割合
感 動	感じる	神秘, 不思議, 感心	46.5%
	心を動かす	感謝, デリケート, 大切	81.4%
	理解する	サポート, 構造, 機能	64.0%
愛 情	慈しむ	自然の営み, 尊敬, 驚き	59.3%
	大切	奇跡, 感謝, 誕生の責任	67.4%
	守る	生命の尊さ, 誕生のしくみ, 計画的出産	53.5%
同 調	考えを合わせる	努力, 責任, 夫婦愛	81.4%
	調子を合わせる	計画的避妊, 性周期, 健康	94.2%
	自律できる	自然に, 解らない, ピリングス法不信	8.1%

2-3) 記載内容の相互関連

「愛情」の中項目記載の有無による「感動」中項目の記載ありの割合（出現率）を表3に示した。「慈しむ」の中項目記載を行なったものでは、「心を動かす」の出現率が90.2%、「理解する」の出現率が72.5%、「感じる」の出現率が60.8%といずれも「慈しむ」の記載をしなかったものより有意に高かった。同様に「守る」の中項目記載を行なったものでは、「心を動かす」の出現率が89.1%、「理解する」の出現率が73.9%、「感じる」の出現率が58.7%といずれも「守る」の記載をしなかったものより有意に高かった。「大切」と「感動」との関係はそれよりは弱く、「理解する」でのみ有意な差が見られた。

表3. 指導後の「愛情」と「感動」のクロス表とカイ二乗検定

感 動 の 記 載 あ り の 割 合 (%)				
愛 情	記載の有無	感じる	心を動かす	理解する
慈 し む	記載あり	60.8%**	90.2%*	72.5%*
	記載なし	25.7%	68.6%	51.4%
大 切	記載あり	51.7%	82.8%	74.1%**
	記載なし	35.7%	78.6%	42.9%
守 る	記載あり	58.7%*	89.1%*	73.9%*
	記載なし	32.5%	72.5%	52.5%

* : 5%水準で有意な関連があるを示す。

** : 1%水準で有意な関連があるを示す。

次に、「愛情」と「同調」中項目の記載ありの割合（出現率）を表4に示した。「慈しむ」の中項目記載の有無によって出現率に有意差があった「同調」の中項目はなかった。「大切」は「調子を合わせる」と関連し、「守る」は「考えを合わせる」および「自律できる」と有意に関連していた。しかし、「愛情」と「同調」の関連は全体的に「愛情」と「感動」との関係よりも弱い傾向にあった。

表4. 指導後の「愛情」と「同調」のクロス表とカイ二乗検定

同 調 の 記 載 あ り の 割 合 (%)				
愛 情	記載の有無	考 え を 合 わ せ る	調 子 を 合 わ せ る	自 律 で き る
慈 し む	記載あり	82.4%	96.1%	5.9%
	記載なし	80.0%	91.4%	11.4%
大 切	記載あり	82.8%	98.3%*	8.6%
	記載なし	78.6%	85.7%	7.1%
守 る	記載あり	89.1%*	97.8%	17.5%**
	記載なし	72.5%	90.0%	0%

* : 5%水準で有意な関連があるを示す。

** : 1%水準で有意な関連があるを示す。

大項目3分野での中項目出現数（0から3）の関連についてスピアマンの順位相関係数を表5に示した。「感動」について多くの項目に渡って記載をしている人ほど、「愛情」についても多くの項目を記載していた ($r=0.660$, $p<0.01$)。「同調」は「感動」「愛情」とは有意な関連を示さなかった。

表5. 「感動」「愛情」「同情」各評価間のスピアマンの順位相関係数

	感 動	愛 情	同 調
感 動	1.000	0.660**	0.159
愛 情	0.660**	1.000	0.166
同 調	0.159	0.166	1.000

** : 1 %水準（両側）で相関係数の値が有意であることを示している。

考 察

計画出産の理解度の評価アンケートの記載で、参加者が高く評価していた点は、教材と指導であった。教材については全員が感動に関連する記述をしていた。生命誕生に関するビデオとビリングス排卵法の提示は、感動といのちに対する神秘さを与え、守り育て、計画的に妊娠するという気持ちを育成するのに効果的であったと評価できる。また、指導に対する評価も多く見られた。120分の指導時間は、教材と意見・感想の交換中心の展開であり、指導方法が双方向性で、常に自己の問題と解決方法として進められていて、時間・指導内容について十分であったと評価できる。また、内容、講演の意図ともに十分に理解されたと考えられた。

「母子保健（リプロダクティブヘルス・ライツ）」についての保健行動の育成に関連する「愛情」について、ほとんどの参加者が言及し、ビデオ内容によってほとんどの参加者が「生命の誕生等に感動」し「愛情」について記述していた。「感動」と「愛情」との項目間には、表3、表5に見られるような有意な強い関連がみられ、生命の誕生に対して感動を与えることが、望ましい母子保健的認識の表現である「愛情」に強く影響を与えたと考えられた。例えば、今回の講習によって、女性の体のデリケート、機能、構造が理解され、それによって生命を生み出す自分の体は大変デリケートで大切にしたいという気持ちの形成ができた。その結果、結婚による生命の誕生が肯定的に受け止められている意識が形成された。

一方、「愛情」と「同調」の各項目では、母子保健の大切さを理解すると行動面での協力が生れること、母子を守ることと意見を一致させること、母子を守ることと自律的であることが関連していた。しかし、それ以外の項目では有意差はなく、「愛情」と「同調」の関係は「感動」と「愛情」との関係よりは弱いものだと考えられた。「夫婦で協力して計画的に妊娠し出産したい」と考える要因は「母体の健康と妊娠との関係への関心と理解」以外にも存在すると考えられた。

人口問題研究所の第11回出生動向基本調査によると、結婚10年未満の夫婦の理想の子どもの数は、2.4に減少した。これは、一人っ子を理想とする夫婦が増えたからとしている³⁾。少子化傾向のなかで、子どもの出産に対して母体の健康を守る大切さを育成することは、地域母子保健活動として重要課題である。今回の地域母子保健活動は、行政等による組織的なものでなく、教会の日常活動のなかで、任意の小集団に対して実施したものであ

る。今回、かなりの成果をあげられたことを報告したが、このような地道な活動が、地域母子保健活動として大切であることが確かめられた。今後も、様々なかたちで、母子保健分野でリプロダクティブヘルス・ライツの思想が普及し、それが、実際の活動に結びつくことを期待したい。

アンケートに対して自由に回答してもらうために、無記名で、かつ、性・年齢についても記載を求めなかった。そのため、性による分析、年齢による分析はできなかった。今後、性によるリプロダクティブ・ヘルスに対する理解度等の違いについても検討していきたい。

参考・引用文献

1. 我妻 堯 諸外国での避妊法の現況 産科と婦人科, 67 : 29-42, 2000
2. 続 有恒, 心理学研究法10 観察 東京大学出版会 1980
3. 厚生省児童家庭局母子保健係 わが国の母子保健

Evaluation of education on reproductive health and family planning for young couples

Hiroko IWAKI¹⁾, Sumako YOSHITANI²⁾, Kikuko OTSUKA²⁾, Takako SAKAI³⁾

1) The School of Allied Medical Sciences Nagasaki University

2) Nursing department Medical School Yamagata University

3) Nagasaki Junshin junior college

Abstract Opinions on birth, reproductive health and rights, and contraception and family planning were collected from 86 young Japanese who were engaged or newly married after a session of health education. The session consisted of a video-show on birth and maternity, instruction of the Billings method of ontraception, and discussion. Their opinions were analysed by using the linguistic interactive categorical analysis. Three concepts such as "impression", "affection", and "coordination" were selected as the major investigation catogories. The three categories were then sub-devided. The percentage of participants who mentioned each categories were calculated and the relations among them were analysed. "Impression" was strongly related with "affection", meaning that those who influenced much by the health education session had better understanding on reproductive health. "Affection" was partly related with "coodination", meaning that those who had better understanding on reproductive health have positive attitude towards family planning.

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 14(1): 83-87, 2001